Vol. 888

富山経協

イカルギシロヤエ（解説・23ページ）

CONTENTS

2　年度初めのご挨拶
3　2025年度 事業方針
4　2025年度 年間事業活動計画
6　2025年度 委員会活動紹介
9　労働指標
10　Top Interview
　　ＭＡＥ　前田大介社長
12　調査報告
　　2025年４月新卒者等の採用に関する調査結果
14　人事労務管理INFORMATION
16　事業活動報告
　　幹事会、理事会
17　連合富山との懇談会
18　委員会活動
19　講座・セミナー
21　参加者NOTES
23　新会員の紹介
　　会員の動き
24　おしらせ・事業予定

2025 4

年度初めのご挨拶

一般社団法人 富山県経営者協会
会　長　山下 清胤

１月に米国のトランプ大統領が就任しました。今年度は、このことが世界中に大きな影響を及ぼすものと思われますが、今は全く先行きが見通せません。

国際情勢については、突然の様々な発言などもあり、各国が困惑しています。但し、ウクライナ問題については、今まで膠着状態にあったものが動き始めていることは事実です。大変に危うさを感じますが、果たしてこの動きが吉と出るか、凶と出るかは想像もつきません。

経済については、世界および日本とも、「アメリカ第一主義」を掲げた関税政策等により米中対立の激化に加え、他の貿易相手国との関係も怪しくなり、今のままでは決して良い方向には進まないでしょう。

一方、国内では、長年続いたデフレからの脱却が視野に入るなど日本経済の大きな転換期を迎えており、企業には「構造的な賃金引上げ」を目指し「人への投資」を一層加速し「成長と分配の好循環」を加速させることが求められています。

そのためには一人当たりの付加価値増大が必要になり、当協会では今年も『人的資本経営』をテーマに研究・情報発信を行う予定です。経営陣が中心となって「人への投資」を行い、個々人の能力や個性を最大限活かし、結果として事業価値を高めることが目的になります。

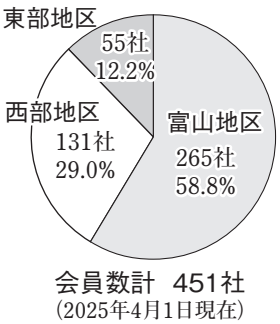
もう１点は「適切な価格転嫁」。これは賃金引上げの原資も含めた価格転嫁が確実に行われることです。以前より「サプライチェーン全体で、企業規模を問わず」と述べてきましたが、これに加え業界全体で情報を共有し、公正取引に抵触しない範囲で価格転嫁に取組むことです。これが社会で認められないと、結局日本経済の好循環が途切れてしまうことになります。

会員企業の皆様にはこれらの取組推進に向け、ご理解、ご協力をお願いいたします。

結びに、皆様のご活躍と企業のご発展を祈念いたしますとともに、本年度も経営者協会は、様々な取り組みを行ってまいりますのでよろしくお願いいたします。

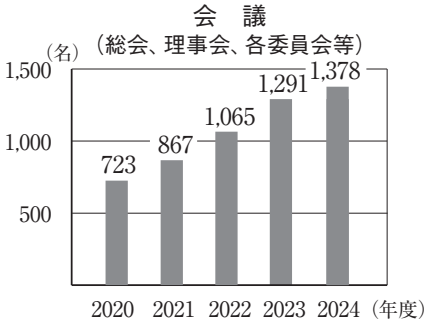
協会の現況

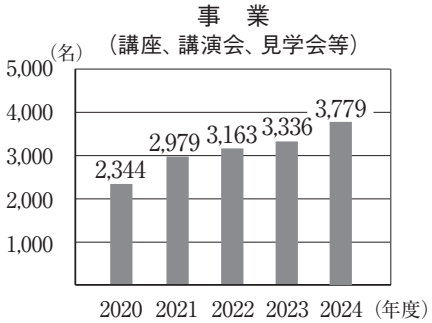
地域別会員数



会員数計　451社
（2025年4月1日現在）

参加者数推移





2025年度事業方針

基　本　理　念

富山経協は、創造的で活力のある企業経営の実現をめざし、
地域社会の発展に貢献します。

2025年度事業方針

世界経済および日本経済の先行きは、米国トランプ政権発足による米中対立のさらなる激化、アメリカ第一主義を掲げた政策や、ウクライナ侵略・中東紛争に対する突然の提言などもあり、不安定で不透明な状況にある。

一方、国内では、長年続いたデフレからの脱却が視野に入るなど、日本経済は大きな転換点を迎えており、企業には「構造的な賃金引上げ」を目指し「人への投資」を一層加速し「成長と分配の好循環」を加速させることが求められている。

このような時にこそ、富山県経営者協会が長年「企業と人」にフォーカスしてきた事業活動が、ますます重要になっており、富山で事業を営む経営者で構成する民間経済団体として、あるべき姿を自覚し、新たな行動をすることにより、存在価値を高めていく。そのために多様化する会員ニーズに対応した経営課題の研究と広報、労働生産性の向上、会員企業で働くすべての社員の能力向上を目的とする研修・セミナー等、事業活動を進め会員サービスの向上につなげていく。

1．企業経営に必要とするタイムリーな情報の収集と提供

（1）経営課題に関する調査研究と情報発信を行う。
（2）会員に必要な情報収集と発信を行う。
（3）人事労務、環境経営、人材育成に関する相談活動の充実を図る。

2．「企業と人」にフォーカスした委員会活動の推進

（1）委員会の役割・目的を明確にし、タイムリーな研究・情報発信を行う。
（2）あらゆる業種・階層に応じた人材育成の研修・セミナーを企画・実施する。
（3）『人的資本経営による人と組織の活性化』をテーマに研究・情報発信を行う。

3．事業活動とサービスの幅を広げた会員相互の交流機会の支援

（1）総会、幹事会、地区懇談会を開催する。
（2）会員企業の見学会とビジネス交流の機会を提供・支援する。
（3）多様な交流機会を提供する。

4．会員ニーズに沿った事業活動とサービスの提供

（1）会員訪問活動を強化し、要望やニーズを踏まえた事業活動を実施する。
（2）研修・セミナーは実施後評価を踏まえて、スクラップ＆ビルドを行う。
（3）企業の「稼ぐ力」に繋がる「人への投資」「労働生産性の向上」等、先進的事例のセミナーを開催する。

5．民間経済団体として機能発揮と地域社会発展への貢献

（1）会員状況把握、政策提言・要望活動を実施する。
（2）行政との連携と相互事業を実施する。
（3）経団連・他団体との情報連携を図る。

2025年度 年間事業

			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
会議			理事会(23日)	定時総会(28日) 理事会(28日)		北陸三県・長野県経営者協会役員協議会(11日・12日)		理事会(12日)
事業				講演会(28日)		西部地区会員懇談会(25日)		富山地区会員懇談会(12日)
調査			新入社員意識調査		初任給調査 夏季賞与調査	経営課題調査		新入社員意識調査(フォローアップ編)
広報			富山経協4月号		富山経協6月号 講演録「不易流行」		富山経協8月号	
委員会	総務交流	会議				定例委員会		定例委員会
		活動						富山経協ゴルフコンペ(27日)
	人事・労務	会議	幹事会	定例委員会			定例委員会	
		活動		企業見学会	労働法関連法制研究部会	メンタルヘルス部会	講演会	労働法関連法制研究部会
	教育	会議			定例委員会		定例委員会	
		活動		研究部会	企業見学会	研究部会	勉強会	
	品質管理	会議	幹事会			定例委員会		定例委員会
		活動			会報編集部会	企業見学会	会報編集部会	事例発表会・GD
	環境	会議	幹事会			定例委員会		定例委員会
		活動		環境保全活動	県内企業見学会 環境保全活動	県との情報交換 環境保全活動		委員相互の情報交換 環境保全活動
	経営企画・IT	会議			定例委員会			定例委員会
		活動			経営課題調査 テーマ設定 勉強会			セミナー
講座・セミナー	階層別研修		新入社員合同研修(3日)	職場リーダー基本コース<2日間>(20日・21日)	管理職基礎コース<3日間>(24日・25日・10月3日)	職場リーダー入門コース<2日間・2回>(A 2・3日)(B 9・10日) 部課長実践講座<1日+1泊2日>(11日、17日～18日)		新入社員フォローアップ研修<2回>(A 17日)(B 18日) 自部門戦略立案研修<2日間>(24日・25日)
	共通(目的別)		仕事の基本「報連相」セミナー(22日)	ISO14001内部監査員養成講座【5月開催】<2日間>(14日・15日)	ヒューマンエラー対策講座【実践編】<2日間>(3日・4日) BCP策定の進め方と事例に基づく策定演習(10日) コミュニケーション力向上セミナー(11日)	会議の生産性を向上するビジネス・ファシリテーター養成講座(23日) なぜなぜ分析活用セミナー【基本コース】<2回>(A 29日)(B 30日)	女性社員スキルアップセミナー(20日) なぜなぜ分析活用セミナー【ブラッシュアップコース】(28日)	ISO14001内部監査員養成講座【9月開催】<2日間>(9日・10日)
	労務管理			人事・労務管理セミナー第1回(13日)	労働法実務講座第1回(19日)		人事・労務管理セミナー第2回(19日)	労働法実務講座第2回(11日)
	品質管理		品質管理入門講座【基礎編】<4日間>(4月10日～5月8日)					
				実践しながら学ぶ統計的手法活用講座<15日間>(5月22日～11月27日)				
	生産管理				ものづくりと現場改善実践セミナー<2日間>(17日・18日)			IE手法による生産現場の改善セミナー(5日)
	購買管理					購買管理実践セミナー(15日)		
	営業		営業力強化研修<2日間>(15日・16日)					
	経理						財務会計の基礎講座(6日)	

活動計画

10　月	11　月	12　月	2026年 1 月	2　月	3　月			
					理事会･幹事会（6日） 連合富山との懇談会（6日）	会　議		
	東部地区会員懇談会（7日）		経済団体新春互礼会（5日）			事　業		
	冬季賞与調査 新春アンケート	経営課題調査		新卒者採用調査	2025年度調査報告書 春季賃金改定調査	調　査		
富山経協10月号		富山経協12月号	富山経協新春号	富山経協2月号		広　報		
		定例委員会				会議	総務交流	委員会
企業見学研修会	会員交流ボウリング大会（13日）					活動		
	幹　事　会	定例委員会		定例委員会		会議	人事・労務	
メンタルヘルス部会	労働法関連法制研究部会	講　演　会	メンタルヘルス部会	講　演　会 労働法関連法制研究部会		活動		
	幹　事　会	定例委員会		定例委員会		会議	教育	
研究部会		事例発表会		企業見学会		活動		
	幹　事　会	定例委員会		定例委員会		会議	品質管理	
県外企業見学研修会 会報編集部会		講演会・GD 会報編集部会		勉　強　会 会報編集部会		活動		
	幹　事　会	定例委員会				会議	環境	
セミナー	県外企業見学会	事例発表会				活動		
	定例委員会			定例委員会		会議	経営企画・IT	
	次年度協会活動テーマ設定 経営課題調査テーマ設定 情報交換会					活動		
職場リーダー実践コース【10月開催】<2日間>（7日・8日） 管理職中級ステップアップコース<2日間>（21日・22日）	若手社員実践コース<2回>（A 18日）（B 19日）		企業倫理研修（20日）	職場リーダー実践コース【2月開催】<2日間>（17日・18日）	若手社員ステップアップコース<2回>（A 10日）（B 11日）	階層別研修		講座・セミナー
ヒューマンエラー未然防止セミナー（10日） 改善セミナー基礎編（23日）	ISO9001内部監査員養成講座【11月開催】<2日間>（4日・5日）	タイムマネジメント研修（2日）	ＣＳ顧客価値実現セミナー（15日）		ISO9001内部監査員養成講座【3月開催】<2日間>（3日・4日） 改善セミナー応用編（12日）	共通（目的別）		
	労働法実務講座第3回（20日）			労働法実務講座第4回（19日）		労務管理		
労務管理実務講座<5日間>（10月1日～11月26日）				春季労使交渉セミナー				
	変化点管理の考え方進め方セミナー（21日）		品質管理入門講座【実践編】<4日間>（1月22日～2月12日）			品質管理		
ものづくり女性社員のための改善力向上セミナー（24日）		５Ｓと目で見る管理実践セミナー（4日）				生産管理		
						購買管理		
						営業		
						経理		

2025年度 委員会活動紹介

総務交流委員会

委員長　水谷　和久
（北陸電気工事株式会社
代表取締役会長）

当委員会では、経営課題に関する情報交換を行うとともに、会員ニーズに即し、経営判断の参考となる調査・情報提供・広報を行い、会員ならびに富山県の産業界の発展につながる人脈構築、会員相互の連携を深めることを目的に事業活動を行っております。今年度も当委員会の活動としては、「会員交流事業」「調査活動」「企業見学研修会」を実施してまいります。

「調査活動」においては、定期・経営課題調査を通じた有用な情報提供に努めておりますので、今後共、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また「会員交流事業」については、引き続きゴルフコンペやボウリング大会開催を計画しており、会員の皆様同士が交流し親交を深め、会員各位の事業に有益な情報交換等ができることを願っております。

▼活動概要▼

＜定例委員会＞

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、調査活動におけるタイムリーな経営課題テーマによる調査内容や会員交流事業の活性化などについて審議を行っております。

＜調査活動＞

「調査活動」は、総務交流委員会が主体となって実施しております。毎年、賃金改定、初任給、賞与、新卒採用等に関する調査や、その時時の経営課題に関する調査を実施し、調査結果を報道機関に公表するとともに、会員の皆さまに機関誌やホームページを利用して、有用でタイムリーな情報提供を行っております。

＜事業活動＞

「会員交流事業」として、９月のゴルフコンペ、11月のボウリング大会に加え、企業・施設見学会も実施する予定です。

人事・労務政策委員会

委員長　大門　督幸
（伏木海陸運送株式会社
代表取締役社長）

当委員会は、企業における「人」の活用（雇用、育成、能力発揮、管理）に関わる諸制度や法令を研究・周知し、健全な労使関係を維持しつつ、時代に即した労務政策を研究・提言することにより、会員企業の発展と経営の安定に貢献することを目的としています。

今年度は、「人的資本経営による人と組織の活性化」をテーマに、企業見学会や講演会・セミナー等を開催し、働き方改革、生産性向上、人材の採用・定着・成長に向けた取り組み事例の情報発信、共有化を図っていく予定です。

また、経営者の視点に立った情報提供を行うセミナーの開催や部会活動も実施いたします。会員企業の皆様のご協力、ご参加をよろしくお願いします。

▼活動概要▼

＜定例委員会＞

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、経団連や県等の外部団体との情報・意見交換も行っております。

６月 企業見学会（働き方改革、生産性向上に向けた取り組み事例等）
８月 経団連の労働政策や労働法制の動きに関する情報・意見交換
12月 富山県「企業と従業員のウェルビーイング創出事業」講演会
２月 人材確保に向けた情報交換会（採用・定着・成長）

＜研究部会活動＞

・労働法関連制研究部会（年４回開催）
最新の労働判例について、弁護士を講師に判例解説、意見交換を実施しております。

・メンタルヘルス部会（年３回開催）
専門機関の講師を招き実務担当者を中心にメンタルヘルスに関する勉強会・意見交換会を実施しております。

＜事業活動＞

経営者協会で実施する人事・労務に関わる講座・セミナーで取り上げるテーマや内容について定例委員会で審議し、①人事・労務管理セミナー、②労働法実務講座、③労務管理実務講座等を開催しております。

教育委員会

委員長　品川祐一郎
（トヨタモビリティ富山株式会社
代表取締役社長）

当委員会では、人的資本経営の実践に向けて、人材育成や企業内教育の諸課題について幅広く調査研究し、会員企業の発展に貢献することを目的としております。

本年も、委員会活動としては「企業見学会」や「勉強会」、「研究部会」活動などを通じて、人材育成やキャリアデザイン、エンゲージメントやマネジメント力向上に関する幅広い情報交換と研究を行いたいと考えております。また、その成果を生かして「階層別研修」をはじめ「職能別研修」など時宜に適したテーマ・内容でより効果の高い研修を、リアル・オンラインの両面で企画・実施し、会員企業の皆様の「人的資本経営による人と組織の活性化」に寄与してまいりたいと考えておりますので、皆様のご参加、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

▼活動概要▼

＜定例委員会＞

定例委員会を６月･８月･12月･２月の年４回開催しております。６月と２月は「企業見学会」を、８月と12月は「組織の多様性を活かすためのキャリアデザイン」をテーマとした勉強会や人的資本に関する先進事例の事例発表会を定例委員会と合わせて実施する予定です。

＜研究部会活動＞

「企業内でのキャリアデザインの状況と推進」をテーマとしております。日本の人口減少やダイバーシティ・多様性などが叫ばれ転職が普通になりつつある時代に、従業員の離職防止としてエンゲージメント向上、モチベーション向上等が求められています。若手層もシニア層もどのように自社でのキャリアデザインを描いてゆくのかについて、各社が自社のキャリアデザインの取り組み、仕組み等をどのように推進していくかという観点で調査・研究いたします。

＜事業活動＞

階層別研修を16講座、職能別研修を11講座開催します。リアル研修とオンライン研修の併用開催を実施するなど、時宜に適したスタイル・テーマ・内容で開催いたします。

品質管理委員会

委員長　舟木　裕史
（株式会社富山村田製作所
代表取締役社長）

本年４月１に品質管理委員会委員長を拝命しました。

「顧客第一、品質第一」を基本として、企業経営における「品質」の重要性を再認識し、品質経営、品質管理活動の普及と向上を図ることが、当委員会の目的です。

社会のダイバーシティー推進、地政学的な面からの事業課題など、事業環境が大きく変化、複雑化する中、企業にはこれまで以上に変化に敏感になり、先取りした対応を求められています。そのためには、事業の企画運営に加え、強い現場力・組織力が求められることになります。

当委員会では、品質経営の重要な考え方や取り組みを内外から学び、また、委員の相互交流を図ることで、「企業価値向上のために必要な組織能力」や「自部門が果たすべき役割」を認識し、企業価値向上に資する基盤強化や現場力・組織能力向上に役立ててもらいたいと考えています。皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

▼活動概要▼

＜定例委員会＞

委員に加え、若手担当者も交えた相互の情報交換・経験交流として「講演会（事例発表）・ＧＤ形式」を２回、他社の活動を実際に目で見て体感する場として「県内企業見学会」を１回、日本の品質経営・品質管理の先進企業を直接見て学び、品質管理活動の意識を高め、会員相互の啓発を図ることをねらいに「県外企業見学研修会」を１回計画いたしました。

また、品質に関する重要な考え方を学ぶ「勉強会」を１回開催するとともに、日本科学技術連盟主催の「品質管理シンポジウム」への参加を計画しています。

なお、品質管理委員会会報紙「join♡Ｔ」の第５号を引続き発行する予定としています。

＜事業活動＞

人材育成に関わる「講座・セミナー」を15講座開催し、委員の講座・セミナー担当制を引続き実施することにより、講師との情報交換を行い、階層別・分野別の品質管理教育の計画的実施と内容の見直し等を行っております。

環境委員会

委員長　小田　満広
（北陸電力株式会社
常務執行役員）

当委員会は、持続可能な循環型社会を目指し、かけがえのない地球環境を次世代へ引き継ぐとともに、事業活動を通じ、環境保全と安定的経済社会の両立を図ることを目的として活動しております。

さて、昨年度の委員会活動としては、中小企業向けのＢＣＰ策定に関するセミナーの開催、カーボンニュートラルに関する委員相互の情報交換，富山県機電工業会の皆様との情報交換、県内外の企業見学会等を実施し、いずれも沢山の会員の皆様に参加いただきました。

引き続き、今年度も会員のみなさまと、行政による環境施策に関する情報や会員のみなさまが取り組んでいる事例等、カーボンニュートラル全般に関する情報を共有、交換ができるよう、諸活動を展開してまいりますので、皆様のご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

▼活動概要▼

＜定例委員会＞

定例委員会を７月・９月・12月の年３回開催しております。９月は委員各社の環境問題に対する取り組み状況の情報交換を計画しております。また、富山県機電工業会の環境委員会と共催で７月「富山県との情報交換」、12月「事例発表会」を計画し、委員会を超えた情報交換・相互交流の促進にも取り組み、持続可能な循環型社会構築の一助となるよう活動いたします。

＜事業活動＞

環境経営導入・強化に向けた人材育成策として「ISO14001内部監査員養成講座」を５月と９月に開催、新たな講座・セミナーとして「ＢＣＰ策定の進め方と事例に基づく策定演習」を６月に開催いたします。

また、環境問題に対する様々な取り組みを実際に目で見て体感することを目的に「県内・県外企業見学会」の実施や、オイスカ富山県支部ならびに委員企業が主催する「環境保全活動」にも参加をし、地球環境の保全に少しでも役立てるような活動をしていきます。

経営企画・ＩＴ委員会

委員長　萩中　利昌
（三協立山株式会社
執行役員）

当委員会は、「経営者・経営層を対象とした経営課題に関する研究・調査を行いその成果を情報発信するとともに、経営理念や方針等を社員に浸透させる取り組みや仕掛けについての勉強会・見学会を企画実施する」ことと、「企業経営環境の変化に対応した重要課題を委員会で議論・意見交換し、その中で浮かび上がった緊急課題を理事会に提言し協会の政策立案につなげる」ことを活動目的としております。

今年度は、協会活動テーマである「人的資本経営による人と組織の活性化」のもと、各種経営課題についての研究・調査活動、情報発信、および行政・他団体とも連携した施策の実施・支援など、皆様の継続的な成長・発展に寄与できるよう取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

▼活動概要▼

＜定例委員会＞

委員相互の情報交換の場として年４回開催しております。今年度は６月と11月に経営課題調査のテーマ設定、11月に協会活動テーマを検討する予定です。また、勉強会を６月、県との共催でセミナーを９月、情報交換会を11月に実施する予定です。

＜事業活動＞

経営者の役割に特化した経営課題をテーマに研究・調査活動について審議・検討を行い、議論の中で浮かび上がった緊急課題については理事会に提言し、協会の政策立案につなげております。その上で、総会や地区会員懇談会における講演会等の企画・実施を行っております。

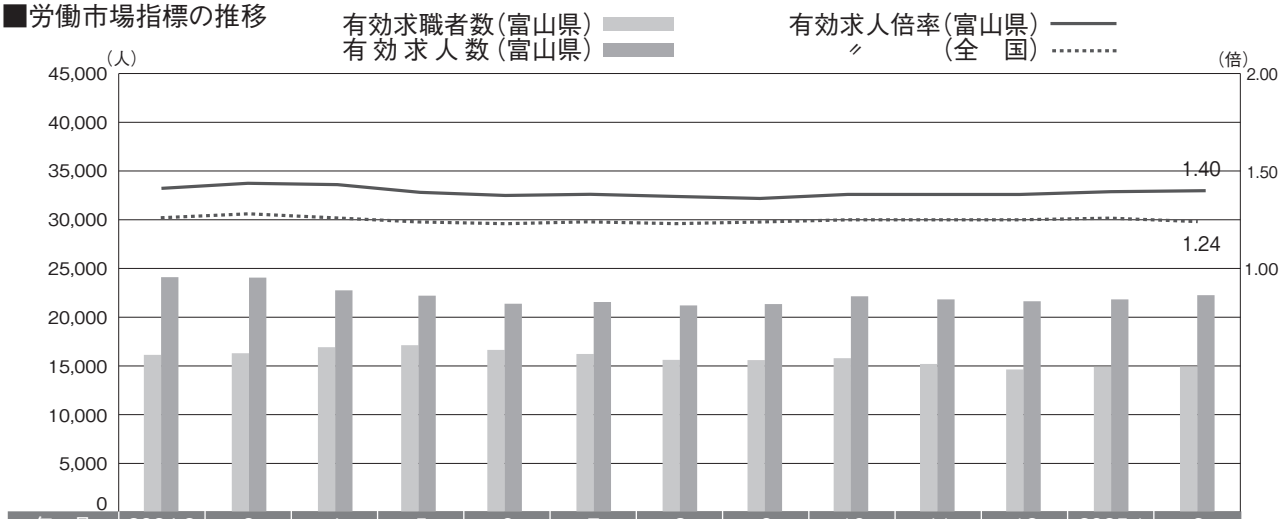
＜ＩＴインフラ部会活動＞

企業の生産性向上に向け、経営の切り口からＩＴ活用について調査・研究を行っているほか、参加企業間でのＩＴ活用や情報セキュリティのあり方等について情報交換を行っております。

委員会活動についてのお問い合わせは　事務局まで　TEL（076）441-9588
Eメール info@toyama-keikyo.jp

労働指標

■労働市場指標の推移

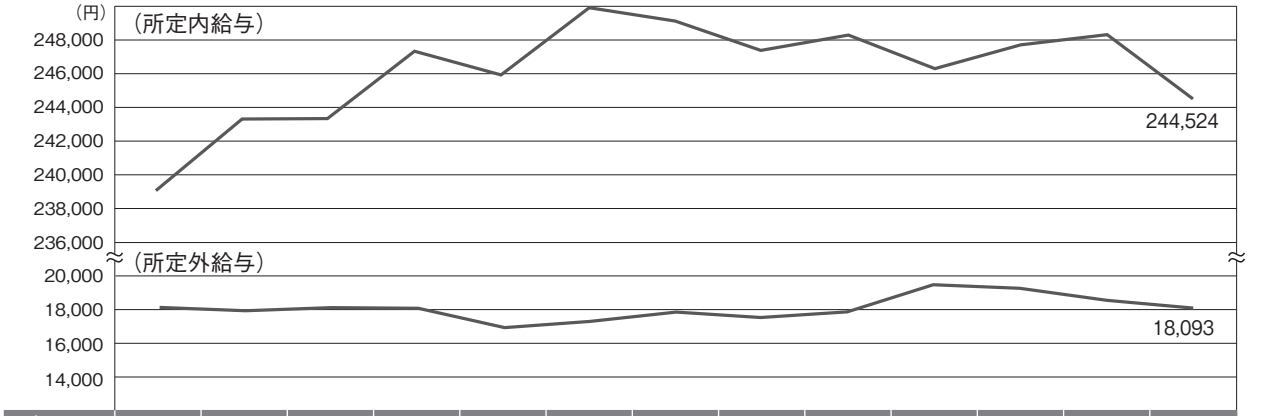


年 月	2024.2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2025.1	2
県求職者数	16,188	16,308	16,944	17,151	16,672	16,021	15,565	15,558	15,850	15,204	14,673	14,918	14,943
県求人数	24,024	24,013	22,771	22,090	21,398	21,575	21,200	21,366	22,041	21,863	21,622	21,687	22,274
県求人倍率	1.41	1.44	1.43	1.39	1.37	1.38	1.37	1.36	1.37	1.38	1.38	1.39	1.40
全国求人倍率	1.26	1.28	1.26	1.24	1.23	1.24	1.23	1.24	1.25	1.25	1.25	1.26	1.24

出典：富山労働局「労働市場月報」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html
注）2023年12月以前の有効求人倍率の数値は新季節指数により改定されています。

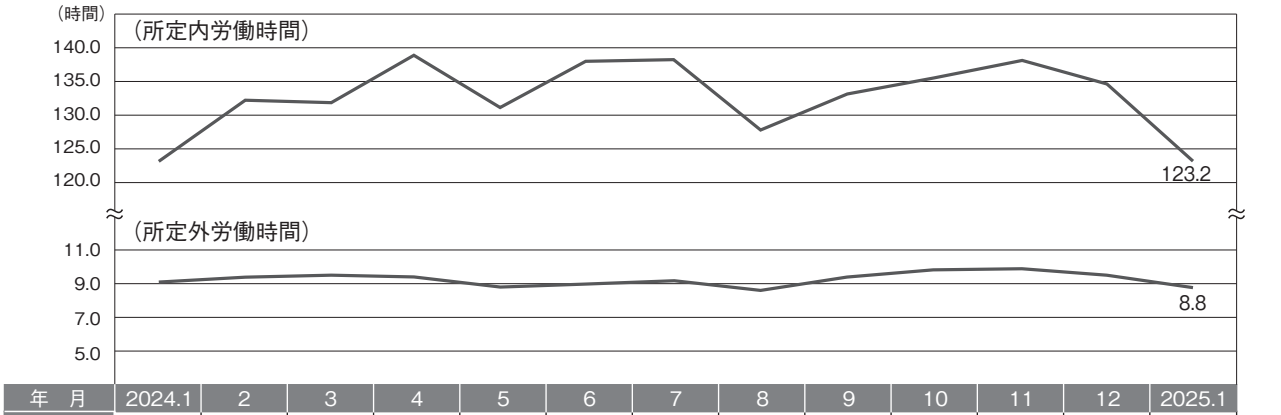
■賃金･労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

賃金の動き



年 月	2024.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2025.1
所定内	239,088	243,342	243,369	247,383	245,972	249,874	249,161	247,400	248,275	246,388	247,707	248,389	244,524
所定外	18,188	17,964	18,161	18,085	16,990	17,310	17,825	17,525	17,823	19,426	19,210	18,533	18,093

労働時間の動き



年 月	2024.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2025.1
所定内	123.1	132.2	131.8	138.9	131.1	138.0	138.4	127.8	133.1	135.5	138.1	134.7	123.2
所定外	9.1	9.4	9.5	9.4	8.8	9.0	9.2	8.6	9.4	9.8	9.9	9.5	8.8

出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html

Top Interview

人と社会に新陳代謝を

働く幸せとワクワクを感じられる グローカルカンパニー

株式会社ＭＡＥ（旧：前田薬品工業株式会社）
代表取締役社長
前 田 大 介 氏

４月１日に社名を前田薬品工業㈱から「㈱ＭＡＥ」へ変更されました。来年は創立60年を迎えられます。社業の歩みをお伺いします。

1958年に創業し、66年に法人化して、パップ剤や軟膏剤、内服薬の製造も手掛けて成長してきましたが、2013年に試験データの改ざんがあったことが判明し、社長を務めていた父が引責辞任。急遽14年に私が社長に就きました。

売上の３分の１を占めていた飲み薬の製造をやめ、塗り薬と貼り薬に集中特化し、生産性、利益率を向上させ、４年で黒字転換を果たしました。新型コロナ禍でインバウンドの爆買いがなくなり、受託していたメーカーの不正問題とのダブルパンチで２度目の経営危機もありましたが乗り越え、売上高は社長就任時の３倍にまでなっています。

― 医薬品から健康、幸せへ ―

立山の麓で水田とハーブ園が広がる中で、心身を解放できる施設が点在する「ヘルジアンウッド」をつくり、医薬品以外の事業を拡大していらっしゃいます。

現在、売上の９割は医療用医薬品で、ジェネリックのステロイド外用剤は国内シェア28％を占めています。薬が処方されると自己負担は一部となりますが、残りは税金です。その事業モデルの危うさに気づき、国の財源に頼らずに、グローバルに展開ができる事業を考え、肌を健康にするスキンケア化粧品に着目しました。

私は会社存亡の危機で社長に就き、立て直しに奔走する中で不調を来たし、その時、救ってくれたのがアロマでした。その経験を踏まえてアロマオイルの研究を始め、ヘルジアンウッドで原料となるハーブを育てて商品化し、アロマセラピーの施術やハーブを用いたレストラン、サウナホテルなどを整備しています。当初は体験施設としての計画でしたが、隈研吾氏の設計により人の交流や自然の中での教育が生まれる環境となり、周辺の空き家や耕作放棄地、廃校も活用しながら、限界集落をウェルビーイングに暮らせる村へと再生させる取り組みも進めています。

事業が多角化する中で、心がけていらっしゃることは何ですか。

会社のビジョンを最優先にして全ての事業を進めてきました。いわゆるビジョンドリブンです。

これまで「健康寿命延伸コンテンツ創造企業への転換」をビジョンに掲げてきました。社員には「医薬品もスキンケアも、ヘルジアンウッドで提供する飲食も全て、人

の健康的な生活と幸せのため。そして自らの人生ビジョンと会社のビジョンを一致させて欲しい」と言い続けてきました。

このたび、2030年のＫＧＩ（重要目標達成指標）、会社の新しいビジョンを策定しました。「働くことの幸せとワクワクを感じられるグローカルカンパニー」。時代が変化する中で、社員がやりがいを持って、次の10年の成長を予感しながらワクワクする仕事を、この富山から世界に向けてしていきたいと思います。

まずＫＧＩとして掲げているのが、当社で働くことを幸せに感じる社員の割合が80％、新規事業を年10案件、女性の管理職・役員比率が50％。2030年にこの３つを達成することで、製薬事業の目標65億円、医薬品以外の事業が15億円に成長し、経常利益率10％の会社を目指すという順序で、売上目標ありきではありません。働くことの幸せや未来に対する期待を一番大切にします。

人材育成についてお聞かせ下さい。

リーダーの育成は、とにかくディスカッションをして、例えば毎月の経営戦略会議では15人のマネージャーから毎回３人が課題を話し、それについてワークショップ形式でみんなで解決策を考えます。また、稲盛和夫さんのアメーバ経営を実践しており、各マネージャーは担当部門の予算と実績を管理して中小企業の社長のように経営しています。リーダー育成の教育プログラムなどはなく、ＯＪＴの中でリーダーが育っています。

人事評価はどうされていますか。

当社は成果主義ではなく、実力主義です。実力というのは「会社のビジョンをかなえる実力」です。会社が掲げるビジョンに向かって自らが成長し、会社を成長させる実力。数字の部分と、人に対する部分、どちらも必要となります。

マネージャーなど成果が求められるポジションはまず数字を見ますが、目標を達成しなかったから減給などということはありません。しかし、管理職としての実力がなければ、愛を持って降格します。リーダーに不向きなだけで、得意なポジションで実力を発揮すればいいのです。

また、目標設定の達成度合いに応じてボーナスを上乗せしています。チャレンジして目標を設定するかどうかは任意で、別の部署への異動や、副業も大切なチャレンジとして評価しています。

副業も評価するのですか。

その人の資質、能力が上がるじゃないですか。人口減少の日本では会社で人材を抱えるのではなく、社会で人材をシェアする時代が来ると思っています。社外から「副業してくれ」と言われるほどの人材になれと言っています。

現在、目標設定をしている社員が３割にとどまり少し残念ですが、決められた仕事を丁寧にすることも大切なので、尊重しています。多くのチャレンジが生まれ、新陳代謝が促されることを期待します。

―新たな社名で脱皮―

新社名「ＭＡＥ」に込めた思いを教えてください。

2016年からスキンケア化粧品の開発を始め、アロマの精製、原料となるハーブの栽培から商品化、飲食や体験、宿泊、移住を促すコンテンツづくりなど、祖業から派生した医薬品以外の事業が黒字化してきました。今は全体の売上の５％にも満たない規模ですが、事業の数は30を超えています。今後の会社の成長の柱です。

当初から自分が50歳になるまでに次の社長は社員から出すと公言していました。社員による第三創業に向け、「人と社会に新陳代謝を」起こすことをミッションとし、製薬会社の殻を破ってチャレンジし、失敗から次の成功、成長へと脱皮を繰り返していきます。そして、「健康で幸せな社会」を作る哲学を育み続けます。

全社員が集まる社内イベントで新社名を発表
（2024年10月、右奥に前田社長）

略　歴

1979年10月上市町生まれ。同志社大学商学部卒。㈱トマック勤務を経て、2008年前田薬品工業㈱（現・㈱ＭＡＥ）入社、13年専務、14年４月から代表取締役社長。

会社概要

株式会社ＭＡＥ

創　　業：1958（昭和33）年
創　　立：1966（昭和41）年2月
所 在 地：富山市向新庄町1丁目18番47号
資 本 金：9,300万円
事業内容：医薬品・医薬部外品の製造及び製造販売
従業員数：203名（2025年4月現在）
売 上 高：46億6,295万円（2024年9月期）
事 業 所：立山工場
関連会社：㈱ＧＥＮ風景、㈱Ｄｏｕｂｌｅ Ｓｃｏｒｅ、㈱裏門
ＵＲＬ：https://mae-corp.com

調査報告

2025年4月新卒者等の採用に関する調査

2025年10月1日施行の育児・介護休業法 改正ポイント

今回は、前回（「富山経協」Vol.887）の「人事労務管理INFORMATION」で取り上げた2025年４月１日から段階的に施行される「改正育児・介護休業法」のうち、10月１日に施行される「⑩柔軟な働き方を実現するための措置等」と「⑪仕事と育児の両立に関する個別の意向聴取・配慮」の具体的内容について紹介します。

⑩ 柔軟な働き方を実現するための措置等　　義務：就業規則等の見直し

（1）育児期の柔軟な働き方を実現するための措置

・事業主は、３歳から小学校就学前の子を養育する労働者に関して、以下５つの「選択して講ずべき措置」の中から、２つ以上の措置を選択して講ずる必要があります。
・労働者は、事業主が講じた措置の中から１つを選択して利用することができます。
・事業主が講ずる措置を選択する際、過半数組合等からの意見聴取の機会を設ける必要があります。

＜選択して講ずべき措置＞

措置の選択肢	各選択肢の詳細
① 始業時刻等の変更	次のいずれかの措置（一日の所定労働時間を変更しない） ・フレックスタイム制 ・始業または終業の時刻を繰り上げまたは繰り下げる制度（時差出勤の制度）
② テレワーク等	一日の所定労働時間を変更せず、月に10日以上利用できるもの
③ 保育施設の設置運営等	保育施設の設置運営その他これに準ずる便宜の供与をするもの （ベビーシッターの手配および費用負担など）
④ 養育両立支援休暇の付与	一日の所定労働時間を変更せず、年に10日以上取得できるもの （養育両立支援休暇とは、就業しつつ子を養育することを容易にするための休暇のこと）
⑤ 短時間勤務制度	一日の所定労働時間を原則６時間とする措置を含むもの

注：②と④は、原則時間単位で取得可とする必要があります。

（2）柔軟な働き方を実現するための措置の個別の周知・意向確認

３歳未満の子を養育する労働者に対して、子が３歳になるまでの適切な時期に、事業主は柔軟な働き方を実現するための措置として（１）で選択した制度（対象措置）に関する以下の事項の周知と制度利用の意向の確認を、個別に行わなければなりません。

※ 利用を控えさせるような個別周知と意向確認は認められません。

周知時期	労働者の子が３歳の誕生日の１か月前までの１年間 （１歳11か月に達する日の翌々日から２歳11か月に達する日の翌日まで）
周知事項	① 事業主が（１）で選択した対象措置（２つ以上）の内容 ② 対象措置の申出先（例：人事部など） ③ 所定外労働（残業免除）・時間外労働・深夜業の制限に関する制度
個別周知・意向確認の方法	①面談　②書面交付　③FAX　④電子メール等　のいずれか 注：①はオンライン面談も可能。③④は労働者が希望した場合のみ

望ましい

＊家庭や仕事の状況が変化する場合があることを踏まえ、労働者が選択した制度が適切であるか確認すること等を目的として、上記の時期以外（育児休業後の復帰時、短時間勤務や対象措置の利用期間中など）にも定期的に面談を行うこと

⑪ 仕事と育児の両立に関する個別の意向聴取・配慮　　義務

（1）妊娠・出産等の申出時と子が３歳になる前の個別の意向聴取

事業主は、労働者が本人または配偶者の妊娠・出産等を申し出た時と、労働者の子が３歳になるまでの適切な時期に、子や各家庭の事情に応じた仕事と育児の両立に関する以下の事項について、労働者の意向を個別に聴取しなければなりません。

意向聴取の時期	① 労働者が本人または配偶者の妊娠・出産等を申し出たとき ② 労働者の子が３歳の誕生日の１か月前までの１年間 （１歳11か月に達する日の翌々日から２歳11か月に達する日の翌日まで）
聴 取 内 容	① 勤務時間帯（始業および終業の時刻） ② 勤務地（就業の場所） ③ 両立支援制度等の利用期間 ④ 仕事と育児の両立に資する就業の条件（業務量、労働条件の見直し等）
意向聴取の方法	①面談　②書面交付　③FAX　④電子メール等　のいずれか 注：①はオンライン面談も可能。③④は労働者が希望した場合のみ

望ましい　＊意向聴取の時期は、①、②のほか、「育児休業後の復帰時」や「労働者から申出があった際」等にも実施すること

（2）聴取した労働者の意向についての配慮

事業主は、（1）により聴取した労働者の仕事と育児の両立に関する意向について、自社の状況に応じて配慮しなければなりません。

＜具体的な配慮の例＞

・勤務時間帯、勤務地にかかる配置　　・両立支援制度等の利用期間等の見直し
・業務量の調整　　・労働条件の見直し　　等

望ましい　＊子に障害がある場合等で希望するときは、短時間勤務制度や子の看護等休暇等の利用可能期間を延長すること
＊ひとり親家庭の場合で希望するときは、子の看護等休暇等の付与日数に配慮すること

（出典：厚生労働省リーフレット「育児・介護休業法改正ポイントのご案内」より）

「人事・労務出前相談室」のご案内　＜初回無料＞

会員企業の皆さまを対象とした、人事･労務に関する出前相談を、初回無料でお受けいたします。

■ 担　　当　社会保険労務士 島崎裕美子 氏（島崎裕美子社会保険労務士事務所）
■ 実施場所　会員企業事務所　※富山経協事務所内でのご相談をご希望の方は申し出て下さい。
■ 相談時間　１時間30分以内
■ 料　　金　初回無料
■ 申込方法　①当協会ホームページトップページ「お知らせ」に掲載の「相談申込書」をダウンロード後、相談内容を記載頂き、FAXまたはEメール（roumu-soudan@toyama-keikyo.jp）でお申し込み下さい。
②希望相談日については、「申込日」の1カ月後から日付でお願いします。また、第三希望までご記入下さい。
■ お問合せ先　（一社）富山県経営者協会（竹内・小森）　TEL. 076-441-9588

事業活動報告

幹事会

３月７日（金）16時30分から、富山電気ビル２階202号室で57名が出席して、幹事会を開催した。山下会長の挨拶の後、下記の報告を行った。

（１）2024年度事業報告

第79回定時総会は、５月23日に開催し、2023年度事業報告と財務諸表、県に提出する公益目的支出計画実施報告、2024年度事業計画と損益予算、理事の選任について審議し、承認された。

総会終了後、㈱インサイトパワーズ代表取締役の辻本光邦氏を招き、「≪未来人材ビジョン≫を読み解く～これからの人材育成への指針と施策～」と題して、講演会を行った。

理事会は、４月17日、５月23日、９月13日の３回と書面理事会を８月19日と11月21日の２回開催した。

会員懇談会は、７月26日に西部地区、９月13日に富山地区、11月８日に東部地区、合わせて３回開催し、１月６日に経済５団体合同の新春互礼会を開催した。

広報活動のうち、機関誌は７回発行し、ホームページにも掲載した。調査活動である定期調査は７回、経営課題調査を２回実施した。

講座・セミナーは、オンライン併用含め開催回数は52回となり、1,967人が受講した。

受託事業として、富山県から「TOYAMATCH（ﾄﾔﾏｯﾁ）創設事業」と「現場の技術・技能伝承支援事業」を受託した。

委員会活動について、水谷総務交流委員会委員長、大門人事・労務政策委員会副委員長、品川教育委員会委員長、谷川品質管理委員会委員長、小田環境委員会委員長、萩中経営企画・ＩＴ委員会委員長から報告があった。最後に、教育委員会研究部会から、テーマ「人的資本経営における人材マネジメント」について成果報告があった。

（２）2024年度正味財産増減見込み報告

受取会費は52,765千円、事業収益は、講座セミナーは追加開催等があり予算より2,500千円増の41,500千円、オーダーメイド研修会は2,200千円の見込み。県受託事業収益は14,400千円を見込んでいる。雑収益は、522千円を予定。経常収益計は114,918千円となる見込み。

経常費用計は、物価の上昇の影響を受けて、予算に対し約1,792千円の増加となり、117,918千円の見込みである。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額は、▲3,000千円となり、予算とほぼ同じ水準となる見込み。

（３）2025年度暫定予算（案）報告

受取会費は、前期予算と同じ53,000千円とした。事業収益は、講座セミナー事業で41,500千円、委員会事業で2,000千円、オーダーメイド研修で2,200千円、会員共益事業で2,000千円、県受託業務事業で13,300千円とし、計61,000千円の予算とした。雑収益は650千円で予算を組み、経常収益計は、114,651千円の予算とした。

一方、経常費用は、従業員１人の採用を予定しており、また、総会や会員懇談会は例年通りの規模で開催することを前提に、121,420千円で予算を組んだ。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額は、▲6,769千円となる。

報告終了後、山下会長から、「2025年度の全体行事日程」の連絡と参加の依頼があった。

理事会

３月７日（金）17時35分から、富山電気ビル４階７号室において、理事総数12名中10名、監事総数４名中４名が出席し、３月理事会を開催した。

山下会長が議長となり、①2025年度事業方針（案）の件、②2025年度暫定予算（案）の件、③新会員入会の件について審議し、すべての議案は全員異議なく承認された。続いて、報告事項として、①2024年度事業実績（２月末現在）、②2025年度行事スケジュールついて報告があった。

連合富山との懇談会

３月７日（金）、連合富山役員と富山経協役員との懇談会が富山電気ビルで開催された。当協会からは山下会長、中西副会長、谷川副会長、品川副会長、原副会長、大門副会長、水谷副会長、髙田副会長、金岡相談役、寺山専務理事の 10 名が、連合富山からは浜守会長はじめ 14 名が出席した。

懇談会に先立ち、連合富山の浜守会長から富山経協の山下会長へ要請書が手渡された。要請書では、30 年にわたり凍り付いてきた日本経済のもとで形成された「賃金も物価も上がらない」という社会的規範（ノルム）を変え、再び豊かさを実感できる社会へと動き出すこと、そして、人口減少のもとで社会や産業・企業を維持・発展させていくためには、中長期を見据えた「人への投資」が不可欠であり、「人への投資」をより一層積極的に行う中で、日本全体の生産性を引き上げ、産業基盤を強化し、社会・経済の新たな活力をつくり出していくことの必要性が示され、「働くことを軸とする安全社会」の実現に向けて、６つのテーマと個々の要請について申し入れしている。

浜守会長から、この要請書の基本的考え方について説明があった後、これを受けて山下会長は、「経団連の十倉会長と連合の吉野会長、使用者側か労働者側かでの語り口の違いがあっても、双方、向かっている方向は一緒である。これは富山県においても同じである。今ほど浜守会長から要請書の概要についての説明があったが、いずれの点も、経営者協会としてもそういう風に取り組んでいかなければいけないと日頃から思っている内容である」と述べた。

その後、自由討議に入った。今回も前回同様、事前に意見交換テーマを数項目に絞り込んで実施したことで、より活発な意見交換が行われた。

2025年2月13日～ 4月9日

（ＯＬ）＝オンライン併用開催

	事　　業　　名	委員会名	開　催　日	場　　所	参加人数
会議	品質管理委員会「定例委員会・講演会」	品質管理	2月20日(木)	富山経協・研修室	23名
	人事・労務政策委員会「講演会・定例委員会」	人事･労務政策	2月25日(火)	富山経協・研修室	12名
	教育委員会「定例委員会・企業見学会」	教　育	2月28日(金)	土肥邸母屋	16名
	経営企画・ＩＴ委員会「定例委員会」	経営企画･ＩＴ	2月28日(金)	富山経協・研修室	9名
	連合富山役員と富山経協役員との懇談会		3月 7日(金)	富山電気ビル　4階　8号室	24名
	幹事会		3月 7日(金)	富山電気ビル　2階　202号室	57名
	理事会		3月 7日(金)	富山電気ビル　4階　7号室	14名
	品質管理委員会「幹事会」	品質管理	4月 7日(月)	富山経協・研修室	11名
講座・セミナー	労働法実務講座＜第4回＞	人事･労務政策	2月13日(木)	富山経協・研修室　(OL)	37名
	ＢＣＰ（事業継続計画）研修	環　境	2月14日(金)	オンライン開催	37名
	職場リーダー実践コース	教　育	2月18日(火)･19日(水)	富山経協・研修室	44名
	現場の技術・技能伝承支援研修	品質管理	2月21日(金)	タワー 111ビル 3階 スカイホール	16名
	企業(組織)における情報セキュリティセミナー	経営企画･ＩＴ	2月27日(木)	富山経協・研修室　(OL)	28名
	ISO9001内部監査員養成講座	品質管理	3月 4日(火)・5日(水)	富山経協・研修室	29名
	若手社員ステップアップコース【A日程】	教　育	3月11日(火)	富山経協・研修室	43名
	若手社員ステップアップコース【B日程】	教　育	3月12日(水)	富山経協・研修室	42名
	改善セミナー・応用編	教　育	3月13日(木)	富山経協・研修室　(OL)	38名
	新入社員合同研修	教　育	4月 3日(木)	タワー 111ビル スカイホール	130名

人事・労務政策委員会

■定例委員会

２月25日(火)、富山経協・研修室にて開催した。

第１部の「人材確保に向けた情報交換会(採用･定着･成長)」には、大門委員長をはじめ12名が参加。「人材確保のために取り組みたいこと」と題し、社労士モリマユミオフィスの特定社会保険労務士森眞弓氏の講演の後、グループワークおよび情報共有を行った。

第２部の定例委員会には12名が出席し、大門委員長挨拶の後、事務局より委員交代の紹介、「2024年度事業活動報告及び今後の予定」、「2025年度の事業活動計画(案)」等について報告した。

品質管理委員会

■定例委員会

２月20日(木)、谷川委員長はじめ委員23名が出席して､富山経協･研修室で開催した。

定例委員会では、2024年度事業活動報告および2025年度事業活動計画について説明を行い、幹事会を２回、定例委員会を４回、７月は見学会、９月と12月は講演会、ＧＤ形式、２月は勉強会と、それぞれ併せて行うことと、10月には県外企業見学会を行うことを確認した。なお、年１回の会報誌「join ♡Ｔ」第５号を３月に発行する。

講座･セミナーは、年間15講座･セミナーを開催することと、現状を把握し、問題点・課題を見つけ出し次年度計画に反映させるために、担当委員募集を継続して行うので協力をお願いした。

委員会の後、「将来の富山の水災害はどうなる？－富山版流域治水で立ち向かう－」と題して、公立大学法人富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科教授（工学博士）呉修一氏による講演会を開催し、品質管理以外の視点も取り入れた内容を聴いた。

■幹事会

４月７日(月)、舟木委員長はじめ幹事11名が出席して､富山経協･研修室で開催した。

舟木委員長の挨拶の後、2025年度の具体的な事業活動計画について協議した。委員会活動については、幹事会を４月と11月の２回開催すること、定例委員会は７月に県内企業見学会、９月と12月を講演会(事例発表会)とグループディスカッション、２月に勉強会と併催すること、県外企業見学会については１泊２日で10月に計画すること、また会報「join ♡Ｔ」第５号発行に向けて会報編集部会を数回計画することなど、活動の骨子について協議した。

また、講座・セミナーについては、現行の15講座を継続して開催することなどを確認した。

新委員長の紹介

品質管理委員会

株式会社富山村田製作所

代表取締役社長　　**舟木　裕史**

教育委員会

■定例委員会

２月28日（金）、定例委員会に先立ち品川委員長はじめ16名が参加して、前田薬品工業㈱での企業見学会を、2024年10月にオープンした「土肥邸母屋」にて開催した。

はじめに前田大介代表取締役社長より会社概要や、複合施設「ヘルジアンウッド」等の多角経営の展開経緯、今後のビジョンについて紹介を受けた後、参加者と活発に意見交換を行った。

定例委員会では2024年度委員会事業報告と2025年度事業計画について協議した。2025年度研究部会では、テーマ「企業内でのキャリアデザインの状況と推進」の活動において、新部会員募集を案内した。次回の定例委員会は、立山科学㈱の企業見学会と併せて開催することを確認した。

引き続き、邸内の一角にある「台所」で心温まる家庭的なおばんざいをいただいた後、土肥邸母屋の屋内や宿泊施設を見学した。

経営企画・ＩＴ委員会

■定例委員会

２月28日（金）、萩中委員長はじめ９名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

萩中委員長の挨拶の後、事務局より2024年度事業活動報告をして今年度を振り返った。次に、2025年度委員会事業計画（案）について事務局より説明して、協議した。今年度より新たに企画した「情報交換会」は、委員会社（原則）の経営課題等の情報交換の場として継続して開催することとした。また「企業見学会」は、状況により実施することとした。

次回の委員会は６月26日（木）に開催する。

講座・セミナー

階層別研修

■第２回職場リーダー実践コース

２月18日（火）・19日（水）、44名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の（公財）日本生産性本部主任経営コンサルタトの澤倉光仁郎氏が、企業や組織をとりまく環境変化への対応力強化の必要性と、その中で職場リーダーの果たすべき役割について講義し、活発な意見交換を通して理解を深めた。この中で、①目標の達成に導く実践的な展開方法（ＰＤＣＡ手法）を修得すること、②職場リーダーとしてのリーダーシップと部下の性格等に応じた育成の考え方・スキルを身につけること、③部下育成技術としての交流分析やコーチング技法に関する理解と実践力を強化すること、④メンタルヘルスを推進する上でのリーダーシップ発揮の要点と方法について学んだ。

■2025年度新入社員合同研修

４月３日（木）、40社130名の新入社員が参加して、タワー 111ビルスカイホールで開催した。

「社会人としての基本と企業人としての心構え」を学ぶことをねらいに、（公財）日本生産性本部主席経営コンサルタント林正和氏、㈱コトノハ代表廣川奈美子氏、島崎社会保険労務士事務所所長島崎裕美子氏、金融経済教育推進機構（J-FLEC）認定アドバイザー漆間明子氏、そして当協会谷川正人副会長の５氏が講義・講話した。

第１部　経営者講話

谷川副会長が「新入社員の皆さんに望むこと」と題して講演した。

＜要旨＞

当社では顧客の信頼を得ることを大きな目的とし、「良い物づくり」、「組織･チームづくり」、そして「人づくり」の重要性を説いて、これをコーセルマインドとして浸透させている。皆様も自社の経営理念等の深い意味を理解して仕事に取り組んでください。

仕事には定型業務に加え、現状とあるべき姿のギャップを埋める「問題解決」や、現状をより良くする「課題達成」がある。良い仕事の基本は、「顧客視点」･「品質」意識。成長のためには、顧客視点でＱＣ的にＰＤＣＡを回す取り組みが有効だ。また、仕事の根底には「誰かのために貢献したい、人に喜ばれる仕事がしたい」という目的意識が重要で、これが良い仕事、やりがい･モチベーションに繋がる。その実現には、仕事の目的と対象（顧客、後工程等）を深く理解し、問題解決・課題達成に必要な知識・技術を学び続けることが不可欠だ。

皆様には是非「プロ」を目指してほしい。高い志と夢を持ち、深く、あるいは幅広く学び続ける姿勢、チームワークや誠実さを大切に、そして、自分らしく成長されることを期待している。

第２部　学生から社会人へ・職場のコミュニケーション・指示命令の受け方と報告の仕方

林講師が、学校生活と職場生活の違いを正しく理解するため、組織人としての態度や行動、また、仕事に取り組む意識として、組織の目的と社会的責任を認識しなければならないとし、顧客意識、品質意識など５つの意識と、整理・整頓など安全の３Ｓを常に意識する必要があるとした。

次に、コミュニケーションを行う際の心構え、上手なコミュニケーションのための基本、報告・連絡・相談の大切さと、指示命令の受け方として、呼ばれたらメモを取る、復唱するなどの具体的な指導を通して、考えて行動することの大切さを伝えた。

第３部　消費者トラブル対処法 ～自分の財産は自分で守る～

認定アドバイザーの漆間氏が、最近の若者に多いトラブル事例とその対処法について詳しく説明し、今後、リテラシーの向上、情報収集、専門施設への相談が重要であることを伝えた。

第４部　社会人としてのマナー・職場のマナー

廣川氏が、社会人として必要なマナーについて講義した。第一印象の大切さ、身だしなみのポイントや挨拶の仕方などを説明した後、お辞儀の仕方の実技訓練などを行った。

島崎講師は、職場でのルール・マナーについて講義した。会社のルールである服務規律を守ることの大切さ、職場の風紀・秩序を乱す行為は慎むことなど、企業人として法律に基づき守らなければならない職場での基本について解説した。

第５部　まとめ・レポート作成

林講師が研修を総括し、受講者は本研修で学んだ事柄を自社で活用するため「実践活用シート」を作成し、終了した。

■**若手社員ステップアップコース**

３月11日（火）のＡ日程に43名、12日（水）のＢ日程に42名が参加して、富山経協･研修室で開催した。

本研修は、入社１年～３年程度の若手社員を対象に「自ら組織に働きかけ、組織の活性化に貢献できる人材」となるための心構え・知識・スキル、さらには後輩を指導するための「後輩指導力」を養うことをねらいに企画している。

（公財）日本生産性本部経営コンサルタントの林正和講師は、仕事とは一人の才能や強みを貢献に変えるプロセスであるとした上で、①仕事哲学、②リーダーシップ、③チーム力、④後輩指導力について講義し、グループディスカッションで受講者同士の経験を共有しながら学んだ。最後に、本研修

で学んだことを自社で活用するために「実践活用シート」を作成し、個人目標を立てて終了した。

参加者ＮＯＴＥＳ

「若手社員ステップアップコース」を受講して

株式会社ほくつう
高岡支店技術二課
金谷　祐輝

私は入社して４年目になります。これまで社外の方と接する機会はありましたが、多くは自分よりかなり年上の方で、そのため、今回の講習会で初対面の人とうまくコミュニケーションが取れるか不安で緊張していました。しかし、同年代が多く、気さくに話しかけてくださる方ばかりで、非常に楽しく参加することができました。

当日の内容は大きく分けて「仕事哲学」「リーダーシップ」「チーム力」「後輩指導力」の４つの項目について講師の方から説明を受けました。グループ演習では、「漂流脱出テスト」という課題があり実際に漂流した場合を想定して残された物資の優先順位をグループ内で話し合いました。この課題を通じて、自分の考えを発言するだけでなく他の人の意見を聞き、それを踏まえた上で意見交換を行うことの重要性を学びました。また、自分の考え方を見直すこともできました。

特に印象に残った項目は「後輩指導力」についてです。後輩を指導する際には「褒める」ことが大事ですが、時には「叱る」ことも必要です。最近では叱ることが苦手な人が増えているそうで、「叱らない」ということは「甘やかしている」「自分が嫌われないように」と認識されます。叱る際には、望ましくない行動を客観的に伝え、その行動による影響や本来期待されている行動、更に後輩に期待を寄せていることを伝える。そうすることで後輩の成長に繋がります。今後、後輩を指導する際は、一貫性をもって褒め、丁寧に説明して「叱る」ことを心掛けていきたいと思います。今回学んだことは普段先輩社員から受ける指導と同様の指導方法でした。私も後輩社員に対して同じような指導ができるようになりたいと思います。

講習や先輩社員から学んだことを今後に活かし、自身の成長だけでなく、後輩を指導できる先輩社員になれるように励みます。

共　　通

■**中小企業向け**
ＢＣＰ（事業継続計画）研修

２月14日（金）、37名が参加して、オンラインで開催した。

本研修は近年、地震や台風などの自然災害にとどまらず、サイバー攻撃、感染症、地政学的リスクなどさまざまな経営上のリスクが高まり、企業には危機管理に備えた準備が強く求められていることから、マネジメント層へのＢＣＰ（事業継続計画）策定の啓発をねらい、開催した。

講師の（一社）中部産業連盟執行理事・主席コンサルタントの山口郁睦氏は、ＢＣＰ作成上のポイントとして、①目的の明確化、②中核事業の選定、復旧時間目標の設定、③対象リスクの分析と選定、④実施項目の明確化、⑤教育訓練と点検の計画化、⑥緊急時対応フローの明確化について詳しく解説

し、運用上のポイントとして、①事前対応、②初動対応、③復旧対応について説明し、受講者はＢＣＰ策定について理解を深めた。

講座・セミナー

■企業（組織）における情報セキュリティセミナー

２月27日（木）、来場13名、オンライン15名が参加し、富山経協・研修室で開催した。

㈱よしだまこと事務所代表 吉田誠氏が、①中小企業におけるセキュリティ事例、②情報セキュリティ2025年の10大脅威、③中小企業の情報セキュリティ対策について説明した。具体的な対策として、（独行）情報処理推進機構が作成したチェックシートを用いて自社のセキュリティレベルを確認し、現状に応じたセキュリティ対策の進め方について検討することや、同機構が作成したドラマ形式の動画も紹介し、従業員向けのセキュリティ対策の一助となることも解説した。

■ ISO9001内部監査員養成講座

３月４日（火）・５日（水）、29名が参加して富山経協・研修室で開催した。

国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するもので、県内においても認証取得企業は多く、実施が義務付けられている内部監査の要員養成も企業にとって避けて通れないところであり、本講座を年２回毎年開催している。

講師の㈱テックス ＩＳＯコンサルタント 青山俊一氏は、内部監査は不適合の「修正処置」に留まらず「改善ツール」であることを再認識する必要があるとした上で、ISO9001規格のポイント、要求事項、監査プログラムの概要などについて解説した。また、ISO9001規格は2025～2026年に改訂予定であることにも触れ、改定内容と今後の進捗を解説した。２日目には内部監査の実技演習を行い、監査所見の作成を通じて自職場で行う上でのポイントを学んだ。

■改善セミナー・応用編

３月13日（木）、38名（会場24名、オンライン14名）が参加して、富山経協・研修室で開催した。この講座は、10月に開催した「改善セミナー・基礎編」に続く応用編で、改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的ノウハウについて検討し、改善活動のレベルアップを実現するために開催している。

改善コンサルタントの東澤文二講師は、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が重要であり、レベルアップのためには、改善を積み重ねる「連続改善」と、改善を組み合わせる「複合改善」が有効であるとした。また、参加者が実際に企業の現場で抱えている問題・課題について、具体的な事例に基づいてアドバイスが行われたほか、改善事例は手間をかけずに書き出し、定石集として取りまとめることを勧めた。

労務管理

■労働法実務講座（第４回）

２月13日（木）、講師に第一芙蓉法律事務所の木下潮音弁護士を招き、「2025年４月、10月施行改正育児介護休業法のポイント～男女ともに仕事と育児・介護を両立できるようにする～」をテーマに、37名（富山経協・研修室12名、オンライン25名）が参加して開催した。

育児・介護休業法及び次世代育成支援対策推進法は昨年５月31日に改正・公布され、今年４月１日から段階的に施行される。今回の改正された制度の内容は、従来よりも複雑であり、各企業の実務担当者は正しい理解が必要であることから、改正の重要なポイント及び留意する事項等について、木下弁護士が分かりやすく解説した。

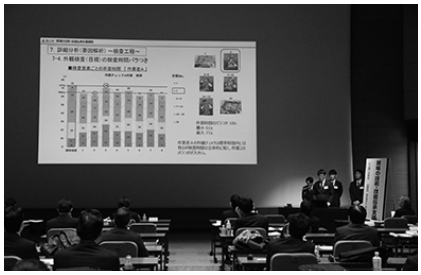
受講者のほとんどは、「今回の法改正についての理解が深まり、就業規則をはじめ、社内規定等の見直しに大いに大変勉強になった」との意見が多く、大変高評価だった。

生産管理

■現場の技術・技能伝承支援研修

富山県からの受託事業として2024年８月６日（火）に開講し、2025年２月21日(金)に18日間の全日程を終え閉講した。

最終日は、第一部では４名１チームで実際の製造現場に入り、モノと情報の流れの中でボトルネックを見つけ改善活動した「現場実習」の成果を発表した。第二部では、各派遣先の上司が見守る中、受講者個人の決意表明を行った。最後に第三部の修了式で受講者16名が修了証を手にし、閉講した。



会員の動き

（50音順）（敬称略）

■ 代表者の変更（窓口代表者）

共栄火災海上保険株式会社 富山支店
支店長　五十嵐一明（前：今井信弘）

損害保険ジャパン株式会社 富山支店
支店長　宮井　淳（前：流石　稔）

第一生命保険株式会社 富山支社
支社長　岡崎　智洋（前：野田　強）

戸田建設株式会社 富山営業所
所長　松下　孝之（前：冨士崎一雄）

豊田通商株式会社 北陸支店
支店長　森　博志（前：岡野雅貴）

日本セック株式会社
代表取締役社長　吉岡　努（前：中田吉泰）

株式会社ホンダ自販タナカ
代表取締役社長　奥　達也（前：浅生忠和）

■所在地変更

ＡＷＳ株式会社
富山市総曲輪３－４－１　WAKURU SOGAWA ３Ｆ
（前：富山市桜橋通り１－18　北日本桜橋ビル６Ｆ）

■ 社名の変更

株式会社ＭＡＥ（前：前田薬品工業株式会社）

新会員の紹介

■ シンコー精機株式会社

所 在 地　高岡市石丸708番地8
代 表 者　取締役社長　稲垣　稔之
設　　立　1979年（昭和54年）11月
資 本 金　2,000万円
従 業 員　47名
事業内容　アルミダイカスト用金型設計・制作、金型修理・改造

■ 役職位の変更（窓口代表者）

日本海ガス株式会社
取締役会長　土屋　誠（前：代表取締役社長）

富士通Ｊａｐａｎ株式会社
取締役 兼 北陸支社長　大久保　尚（前：北陸支社長）

ＹＫＫ ＡＰ株式会社
専務執行役員 生産本部 黒部製造所 所長　福井　英夫
（前：上席執行役員 生産本部 黒部製造所 所長）

紙ぷらす株式会社
代表取締役会長　若林　啓介（前：代表取締役社長）

表紙の花　**イカルギシロヤエ**

（富山県中央植物園 園長 中田政司）

富山県固有の栽培品種

富山県で発見された富山県オリジナルの栽培品種の一つで、原木は砺波市三合の民家で古くから栽培されていた樹齢100年を超す桜です。中央植物園の調査の結果、野生種のオクチョウジザクラが関与した「タカサゴ系」と考えられる新しい品種であることがわかり、原木があった場所の古い地名「伊加流伎」にちなみ、イカルギシロヤエ（伊加流伎白八重）と名付けられました。名前のとおり白い八重咲で、形が整った清楚な印象を与えます。原木は、道路工事による立ち退きのため富山県中央植物園に移植されましたが、活着して順調に生育し、ソメイヨシノが散る頃に満開を迎えます。写真のように大木にならず、縦に伸びる樹形なので、家庭での栽培にも向いています。

2025年今年のサクラ

富山県中央植物園では、その年に因んだサクラを「今年のサクラ」に選んで特別に紹介していますが、今年はイカルギシロヤエが2015年に学会で発表されてちょうど10年になることから、本品種を「2025年今年のサクラ」に選定しました。

「今年のサクラ」は、友の会植物画部会の会員によって植物画に描かれ、毎年それを原画として「サクラポストカード」が作製・販売されてきました。今年のイカルギシロヤエでシリーズ20作目となることから、区切りをつけてポストカード作製は卒業という事になりましたが、過去の在庫分も含め、友の会のショップで購入することができます。

イカルギシロヤエの樹形 ▶

おしらせ

一般社団法人 富山県経営者協会

5月28日(水) 第80回 定 時 総 会

15:00～15:40 **定時総会** 〈 富山国際会議場2階201～204号室 〉 富山市大手町1-2 電話 (076)424-5931

16:00～17:30 **講 演 会** 〈 富山国際会議場3階メインホール 〉

演 題 「日本を取り巻く世界経済・安全保障情勢」
～今後の動向を読み解く～

講 師： ロールシャッハ・アドバイザリー株式会社 代表取締役
東京国際大学 副学長 ジョセフ・クラフト 氏

※講演会は同時にオンライン配信も行います。

17:40～19:10 **懇 親 会** 〈ANAクラウンプラザホテル富山3階「鳳」〉
富山市大手町2-3 電話 (076)495-1111

事 業 予 定

2025年 4月15日～6月15日

詳しくはホームページ(https://www.toyama-keikyo.jp/)「講座・セミナー案内」をご覧ください。

OL＝オンライン併用開催

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所
会議	4月21日(月)	16:00～17:10	環境委員会「幹事会」	環境	富山経協・研修室
	4月23日(水)	16:00～17:00	理事会		富山経協・研修室
	5月12日(月)	16:00～17:00	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	富山経協・研修室
	5月28日(水)	15:00～19:10	定時総会、講演会、懇親会 上記「おしらせ」参照		富山国際会議場 OL ANAクラウンプラザホテル富山
	5月28日(水)	15:45～15:55	理事会		富山国際会議場
講座・セミナー	4月15日(火)・16日(水)	9:30～16:30	営業力強化研修	教育	富山経協・研修室
	4月17日(木)・24日(木) 5月 8日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座＜基礎編＞	品質管理	富山経協・研修室 タワー111ビル 3階スカイホール
	4月22日(火)	9:30～16:30	仕事の基本「報連相」セミナー	教育	富山経協・研修室
	5月13日(火)	9:30～16:30	人事・労務管理セミナー＜第1回＞	人事・労務政策	富山経協・研修室
	5月14日(水)・15日(木)	9:30～16:30	ISO14001内部監査員養成講座	環境	富山経協・研修室
	5月20日(火)・21日(水)	9:30～16:30	職場リーダー基本コース	教育	富山経協・研修室
	5月22日(木)、30日(金) 6月13日(金)	9:00～17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室 タワー111ビル 2階会議室1
	6月 3日(火)・ 4日(水)	9:30～16:30	ヒューマンエラー対策講座＜実践編＞	品質管理	富山経協・研修室
	6月10日(火)	9:30～16:30	BCP策定の進め方と教育訓練セミナー	環境	富山経協・研修室
	6月11日(水)	9:30～16:30	コミュニケーション力向上セミナー	教育	富山経協・研修室

「富山経協」vol.888
2025年(令和7年)4月号
2025年4月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会
〒930-0856 富山市牛島新町5番5号 (タワー111ビル 1階)
TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952
ホームページ https://www.toyama-keikyo.jp/
Eメール info@toyama-keikyo.jp